

関係団体御発表資料

小田原市文化振興ビジョン（概要版）

《序章》

文化とは何か

文化という言葉は、極めて広範な概念を含んでおり、音楽や演劇、美術などで表現される芸術文化だけでなく、衣食住をはじめとした生活文化など、人間が作りだした営み、私たちの暮らしそのものが文化といえます。

文化振興の意義とは何か

文化振興とは、豊かな文化を創造し実感できる環境を整え、充ち足りた思いで暮らせるように生活の質を高めるとともに、文化を通して、社会や経済をよりよいものに高めようとすることです。文化は、「人とまち」にはたらきかけ、未来への希望をもたらしてくれます。

《第1章》

小田原らしい文化とは

小田原には、豊かな自然環境、魅力的な歴史・文化資産、伝統的な地場産業など、宝と呼ぶにふさわしい特性が数多くあり、それを伸ばしてこそ、より魅力的で小田原らしい文化が育ちます。

（1）暮らしとともにある文化

古くから城下町、宿場町として栄えた小田原では、文芸や芝居、茶の湯などに親しみ、豊かな文化の中で暮らしてきました。このように芸術文化を生活の一部として楽しむ人が増えることで小田原のまちの品格が培われてきます。

（2）伝統と革新が息づく文化

小田原の文化は、人が行き交う中で発展し、産業、芸能や生活の中にも息づいています。このように小田原の歴史、風土で育まれてきたものを土台に、新しいものを創造する繰り返しが独自の魅力的な文化を育て、小田原らしさが増していきます。

（3）多様さを生かしあう文化

小田原の豊かな地域資産はまちのイメージを曖昧にするもありますが、この多様性、重層性が小田原の文化の特色でもあります。多様さを個性として、例えば寄木細工が美しい模様を織り成していくように生かしあうことで、小田原の文化の奥行きが深まります。

文化振興ビジョンで目指す小田原のすがた

豊かな文化を背景として、「希望と幸福感を持って暮らすことができるまち」をつくることが、文化振興ビジョンの大きな目的です。希望と幸福感を持って暮らすことができるまちとは、今、豊かな心で暮らせるまちであると同時に、将来への夢を抱けるまちでもあります。

(1) 人～互いを認め合い、コミュニティの絆を結ぶ

東日本大震災を契機に、人と人との絆の重要性が再認識されています。地縁社会が希薄になった現代社会では、人を惹きつける力がある文化を核として、人と人を結び付け、多様な世代、多様な背景を持つ人々が集まる新しいコミュニティが築かれていきます。人は、それぞれ多様な価値観を持つものですが、本当に強い絆は、異なる価値観を排除せず、互いを認め合う寛容さや柔軟性を通じて培われます。文化が育む共感力は、多様な価値観を受け止める力を育て、コミュニティの絆を強くします。

(2) まち～小田原という都市ブランドを高める

都市ブランドは、その都市の個性や独自性から想起されるイメージであり、それが信頼感や好感を与え、認知度が高まり、競争力が増していきます。地域特有の資源を、文化によって育まれた創造性で磨き、外へ向かって発信していくことで、小田原のブランド力が高まります。個性ある都市ブランドは、様々な生産物の価値を高め、経済面でも貢献します。文化が育む創造性は、地域の経済活動に不可欠な付加価値を高め、都市としてのブランドを確立します。

＜第2章＞

課題と取り組み

○課題

- ◆コミュニティの強化
- ◆地域経済の活性化
- ◆郷土愛を育む環境の醸成
- ◆行政の文化に対する取り組みの強化
- ◆芸術文化創造拠点の整備
- ◆担い手や後継者の育成
- ◆情報発信力等の向上

○施策の方針と取り組み

(1) 芸術文化を身近なものにする

芸術文化をはじめとして、様々な文化が身近に感じられる環境を整え、人としての成熟やコミュニティの絆を促すとともに、まちの魅力を高めます。

- ・多彩な文化事業を行う
- ・文化が育つ場所を創る

(2) 志ある人を育てる

個の喜びをまちの喜びに広げていくため、まちを愛し、公共の幸せを願い、責任と自覚をもってまちづくりを担う、志ある市民を育てます。また、高いレベルを持ち、プロフェッショナルとして活動できる人材を応援していきます。

- ・小田原を知る
- ・文化の担い手を育てる

(3) まちの魅力を磨く

社会情勢の変化の中、厳しさを増す都市間競争で、小田原の優位性を高めるため、芸術文化の視点から地域資源を見つめなおし、新たな付加価値を引き出します。

- ・地域資源を生かす
- ・まちの記憶を伝える

(4) 小田原を発信する

市内外に向けて戦略的な情報発信をし、小田原という都市ブランドの認知度を高め、人を呼び込みます。そのためにも、市民一人ひとりが広報パーソンの意識を持つと同時に、行政等の機関が主体となって広報活動を行い、都市セールスの効果を高めます。

- ・小田原の文化を演出する
- ・交流を拡げる

《第3章》

推進体制と効果測定

○推進体制

文化振興ビジョンを推進するためには、文化振興施策を把握し、実施される文化事業全体のバランスや文化団体間の連携支援等を継続して検討する組織が必要です。また、市民や関係者が継続して意見交換、交流する機会を設けるのも一つの方法です。

行政に関しては、縦割りではなく横の連携体制を構築する必要があります。

○効果測定

文化活動は、常に鑑賞者を意識することをはじめ、文化と社会・経済の相乗効果を把握し、促進するためにも、絶えず評価を行うことが重要です。参加者や関係者へのアンケート等内部評価とともに、全く関わりのない市民等の外部評価も行うなど、多角的かつ長期的な効果を測定する必要があります。

《文化振興ビジョンの体系》

目指す都市のすがた：希望と幸福感を持って暮らすことができるまち

人～互いを認め合う「絆」社会 / まち～小田原という「都市ブランド」

《特徴》

小田原の宝

豊かな自然環境

優れた交通利便性

魅力的な歴史・文化資産

伝統的な地場産業や
なりわい文化

市民の豊かな文化活動

小田原の宝を活かした文化の創出

《方向性》

小田原らしい文化

暮らしとともにある文化

伝統と革新が息づく文化

多様さを生かしあう文化

実現に向けた課題

《視点と課題》

視点：人

コミュニティの強化

担い手や後継者の育成

郷土愛を育む環境の醸成

視点：まち

芸術文化創造拠点の整備

地域経済の活性化

情報発信能力等の向上

視点：文化政策全般

行政の文化に対する取り組みの強化

課題を解決するための取り組み

《施策の方針と取り組み》

芸術文化を身近なものにする
・多彩な文化事業を行う
・文化が育つ場所を創る

志ある人を育てる
・小田原を知る
・文化の担い手を育てる

まちの魅力を磨く
・地域資源を生かす
・まちの記憶を伝える

小田原を発信する
・小田原の文化を演出する
・交流を拡げる

推進体制と効果測定の検討

文化審議会文化政策部会

2014年11月10日

文化芸術の振興に関する基本的な方針に関する提案
アートNPOデータバンク調査等の結果から

発表者

NPO法人アートNPOリンク

常務理事 樋口貞幸

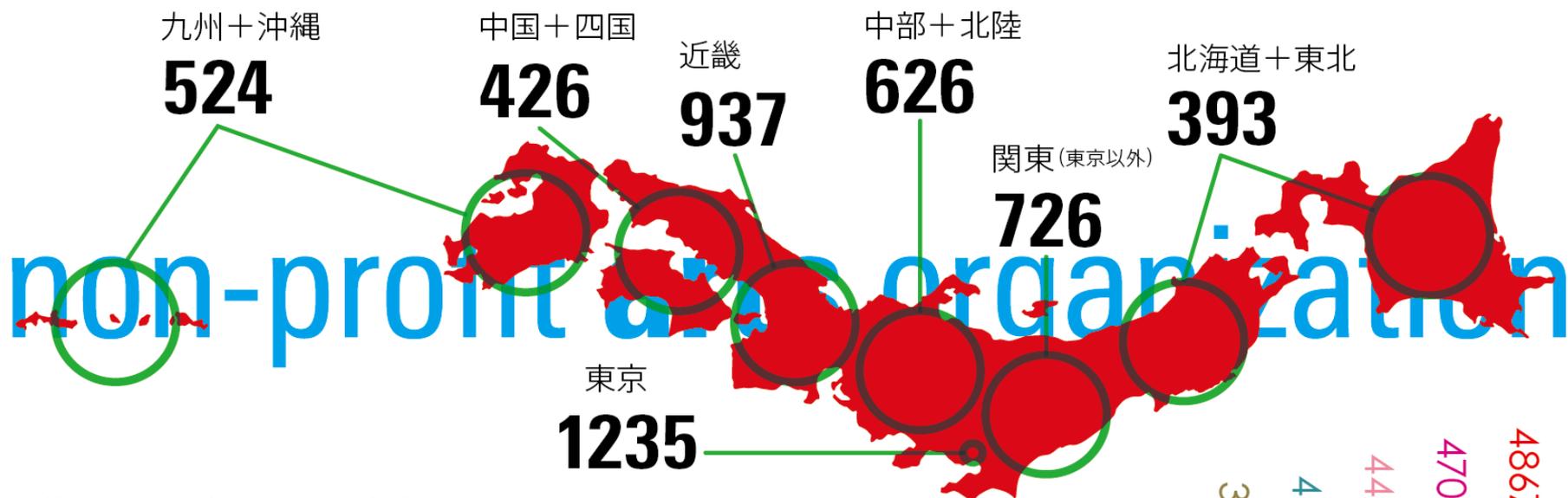
アートNPOセクターの社会的な役割について

—公共サービスのあたらしい担い手として—

- NPOは、市民自らが公共を担うという理念を体現
- 多様な公共サービスを市民の手で生み出す
- 行政や企業などセクターを超えて協働している

アートNPOセクターの社会的な役割について

—公共サービスのあたらしい担い手として—

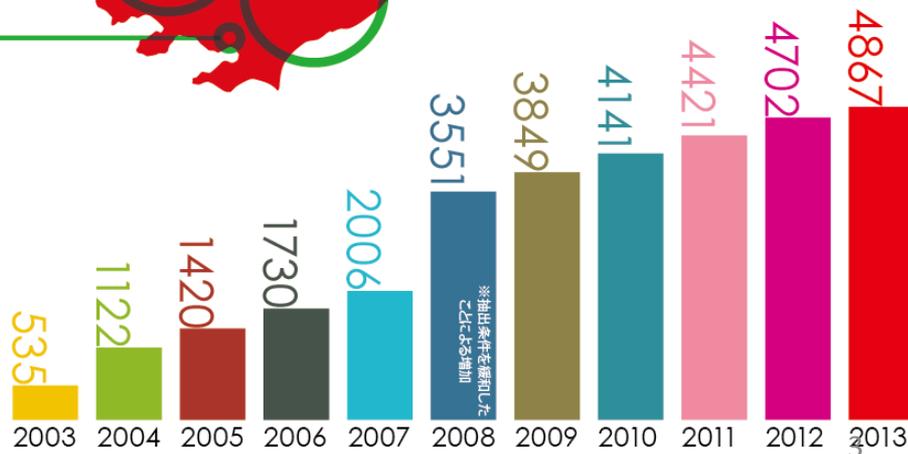


芸術文化を活動に含むNPO法人数

4,867

total

2013年度



*内閣府NPOポータルサイトより作成 | 2014年9月30日現在

アートNPOセクターの社会的な役割について

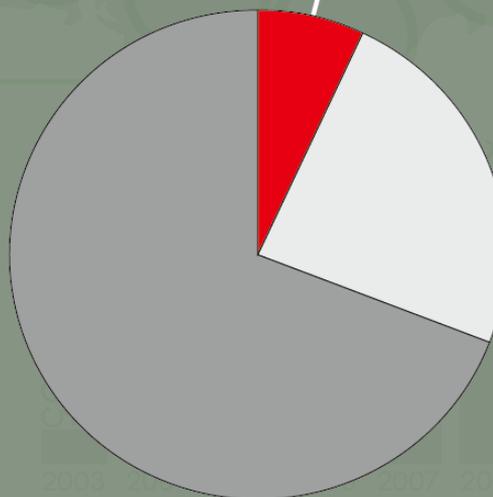
—公共サービスのあたらしい担い手として—

NPO法人設立数(全体) **47,264**法人

定款に第6号(学術、文化、芸術、スポーツ)を含むNPO法人数 **16,378**法人

芸術文化を活動に含むNPO法人数

4,867 2013年度
total



10.29%

*NPO法人全体のうち
10.29%の法人が活動に
芸術文化を掲げている

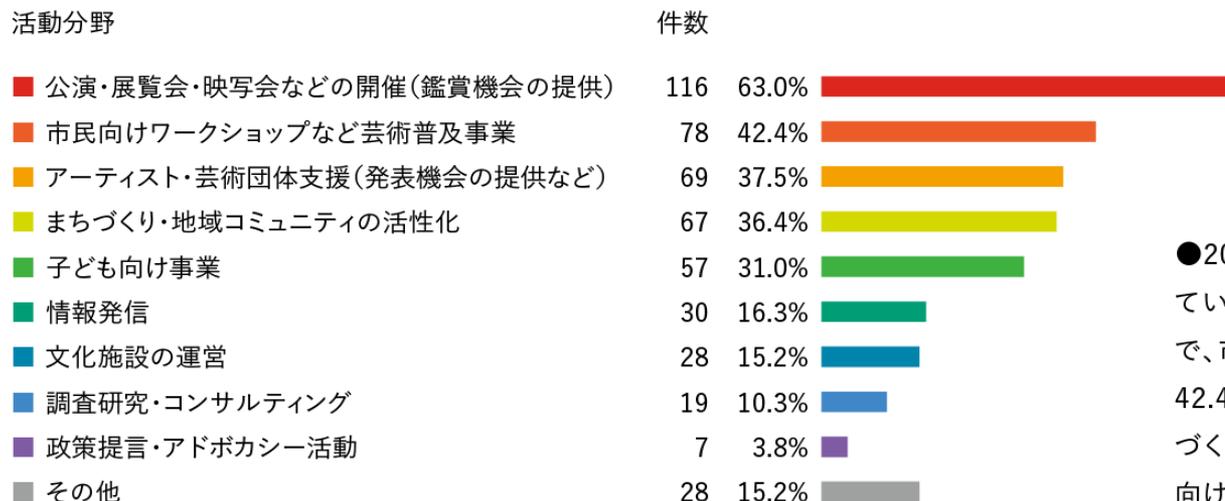
*NPO法人アートNPOリンク独自調べ

日本のアートシーンに変化をもたらしたアートNPOの存在

—アートNPOの事業の変化—

● 文化芸術が社会のいかなる領域にも関係できることを発見

とくに力を入れている活動(複数回答)



●2006年度調査では、鑑賞機会の提供に力を入れているアートNPO法人が63.0%と最も多い。ついで、市民向けワークショップなどの芸術普及事が42.4%、アーティスト・芸術団体支援が37.5%、まちづくり・地域コミュニティの活性化が36.4%、子ども向け事業が31.0%とつづく。

日本のアートシーンに変化をもたらしたアートNPOの存在

—アートNPOの事業の変化—

- 文化芸術が社会のいかなる領域にも関係できることを**発見**
- 社会のさまざまな領域に**関与**する方法を**開発**(ソフト開発)
- セクターや領域、**表現分野を超えた文化芸術の振興**
 - ・ 国際芸術祭、国際舞台芸術祭、アーティスト支援から、
コミュニティ活性、まちづくり、災害復興、社会包摂まで幅広い事業を展開
- アートとコミュニティをつなぎ、**公共文化振興を担う**

日本のアートシーンに変化をもたらしたアートNPOの存在

—どのようなソフトが開発されてきたか—

*アートNPOの一例。全ての活動や団体をあらわすものではありません。

地域での先駆的で国際的な文化芸術の振興 など

- NPO法人アートネットワーク・ジャパン
- NPO法人トリトン・アーツ・ネットワーク
- NPO法人BEPPU PROJECT
- NPO法人札幌室内歌劇場
- NPO法人Dace Box
- NPO法人ふらの演劇工房

文化芸術の担い手、専門家の育成 など

- NPO法人アーツイニシアティブトウキョウ
- NPO法人芸術と計画会議 C.A.P.
- NPO法人国際サーカス村協会
- compass
- NPO法人福岡パフォーミングアーツプロジェクト

学校等教育の支援・手法の開発 など

- NPO法人芸術家と子どもたち
- NPO法人ハート・アート・おかやま
- NPO法人子どもとアーティストの出会い
- NPO法人PAVLIC
- 一般社団法人AISプランニング
- NPO法人STスポット

日本のアートシーンに変化をもたらしたアートNPOの存在

—どのようなソフトが開発されてきたか—

在日外国人の子どもの居場所づくり・エンパワー など

- しんじゆくアートプロジェクト
- ART LAB OVA

社会的マイノリティの支援・顕在化 など

- NPO法人クリエイティブサポートレッツ
- NPO法人こえとことばとこころの部屋
- NPO法人ニコちゃんの会

社会的包摂、居場所づくり、交流機会の提供 など

- NPO法人こえとことばとこころの部屋
- 一般社団法人アート・インクルージョン
- ワンダーアートプロダクション
- NPO法人芸術資源開発機構

日本のアートシーンに変化をもたらしたアートNPOの存在

—どのようなソフトが開発されてきたか—

政治や選挙に関する活動 など

- NPO法人芸術生活研究所hanare

地域活性やコミュニティに転機をもたらす活動 など

- NPO法人BEPPU PROJECT
- NPO法人グリーンバレー
- NPO法人コミュニティアート・ふなばし
- ゼロダテ
- まいづるRB
- NPO法人カコア

災害復興や防災に関する活動 など

- NPO法人プラス・アーツ
- ENVISI Art envision Lives
- NPO法人ジャパン・コンテンポラリーダンス・ネットワーク
- NPO法人いわてアートサポートセンター
- NPO法人ARTS FOR HOPE

日本のアートシーンに変化をもたらしたアートNPOの存在

—どのようなソフトが開発されてきたか—

遊休施設や産業遺産、廃校の文化活用 など

- NPO法人J-Heritage
- NPO法人鳥の劇場
- まいづるRB
- NPO法人アートネットワーク・ジャパン
- NPO法人アルテピアッツァびばい
- NPO法人コンカリーニョ

観光やアートツーリズムの開発 など

- NPO法人BEPPU PROJECT
- NPO法人淡路島アートセンター
- アサヒ・アート・フェスティバルに参加する団体

地域資源の発掘 など

- アサヒ・アート・フェスティバルに参加する団体
- NPO法人蛸蔵

日本のアートシーンに変化をもたらしたアートNPOの存在

—どのようなソフトが開発されてきたか—

アーティスト・イン・レジデンスによる国際交流 など

- NPO法人S-AIR
- 遊工房アートスペース
- NPO法人黄金町エリアマネジメントセンター
- 国際児童青少年演劇フェスティバル
- NPO法人グリーンバレー
- NPO法人BankART1929

メディアや情報リテラシーを高める活動 など

- NPO法人記録と表現とメディアのための組織
- NPO法人地域文化に関する情報とプロジェクト

情報発信、政策提言、中間支援 など

- NPO法人あおもりNPOサポートセンター
- NPO法人いわてアートサポートセンター
- NPO法人アートNPOリンク

日本のアートシーンに変化をもたらしたアートNPOの存在

—どのようなソフトが開発されてきたか—

- 文化芸術立国中期プランにかかげる活動を実践
- さらなる拡充のためのきめ細やかな制度設計が求められる

世界の文化交流のハブとなる

地域での先駆的で国際的な文化芸術の振興 など
アーティスト・イン・レジデンスによる国際交流 など

地域を元気にする

地域活性やコミュニティに転機をもたらす活動 など
災害復興や防災に関する活動 など
遊休施設や産業遺産、廃校の文化活用 など
観光やアートツーリズムの開発 など
地域資源の発掘 など

人をつくる

文化芸術の担い手、専門家の育成 など
学校等教育の支援・手法の開発 など
メディアや情報リテラシーを高める活動 など
情報発信、政策提言、中間支援 など

今後アートNPOの活躍が望まれる活動領域

—社会包摂(ソーシャル・インクルージョン)に関する事業の推進—

- 社会的課題にコミットする活動
- 社会的に排除されやすい状況にある人に対する活動

社会包摂～だれもが生きやすい社会をつくる

社会的マイノリティの支援・顕在化 など

社会的包摂、居場所づくり、交流機会の提供 など

在日外国人の子どもの居場所づくり・エンパワー など

政治や選挙に関する活動 など

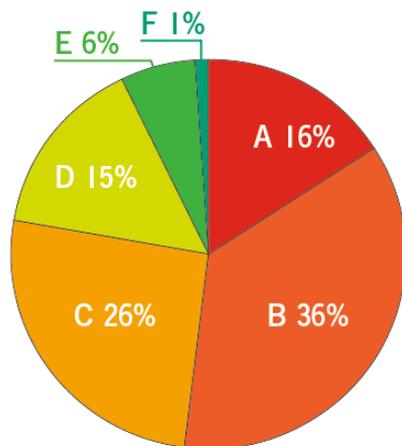
*社会包摂とは、孤立、孤独、排斥に押しやられがちな人々に対して、社会とつながるチャンネルを確保し、人々の相互関係や信頼感を回復させることによって、不当な差別や排除のないコミュニティをつくる実践。

(中川眞・大阪市立大学教授による定義より一部抜粋 | <http://artsmanage.jp>)

アートNPO法人 | 組織と規模

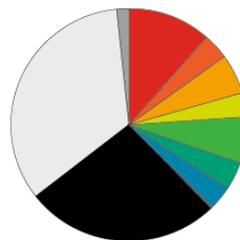
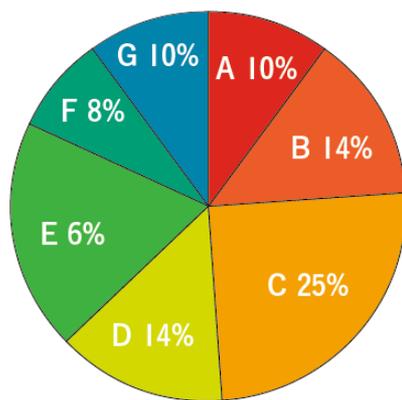
日常的に業務に従事する人数

常勤の人数	件数
A 0人	46
B 1人	43
C 2人	30
D 3人	14
E 4人	11
F 5人以上	11
G 無回答	29
合計	184



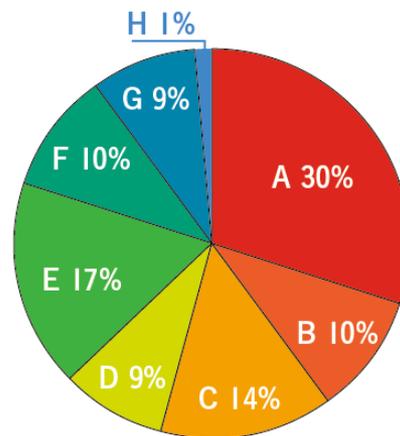
日常的に業務に従事する人数

非常勤の人数	件数
A 0人	25
B 1人	25
C 2人	26
D 3人	20
E 4人	15
F 5~9人	26
G 10人以上	12
H 無回答	
合計	184



給与の平均額(年額)

給与の平均額	件数
A 50万円未満	21
B 50万円以上100万円未満	7
C 100万円以上150万円未満	10
D 150万円以上200万円未満	6
E 200万円以上250万円未満	12
F 250万円以上300万円未満	7
G 300万円以上500万円未満	6
H 500万円以上	1
常勤有給職員0人	49
常勤有給職員数無回答	62
給与の平均額無回答	3
合計	184



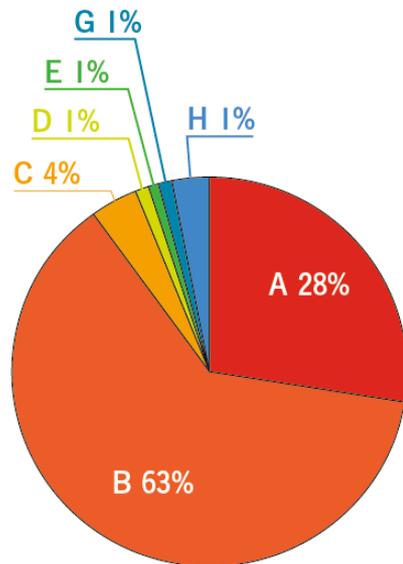
対象 配布数:1742 回答数:201 回収率:11.5%
有効回答数:184 有効回答率:10.6%

大阪府域のアート団体 | 組織と規模

—大阪アーツカウンシル設立に向けた事例調査より—

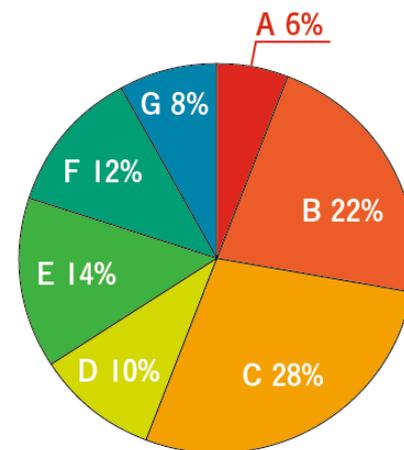
専従職員数

専従職員数	件数
A 0人	30
B 10人未満	68
C 10人以上20人未満	4
D 20人以上30人未満	1
E 30人以上40人未満	1
F 40人以上50人未満	0
G 50人以上100人未満	1
H 100人以上	0
無回答	3
合計	108



団体収入(年額)

年間収入	件数
A 0円	6
B 1円以上100万円未満	24
C 100万円以上500万円未満	30
D 500万円以上1000万円未満	11
E 1000万円以上3000万円未満	15
F 3000万円以上	3
G 無回答	8
合計	108



対象 配布数:399 回答数:109 回収率:27.3%
有効回答数:108 有効回答率:27.1%

- 約90%のアート団体が専従職員10人以下で運営している。
- 年間団体収入は、過半数以上が500万円未満である。

主催:大阪府・大阪市

受託:NPO法人こえとことばとこころの部屋、NPO法人recip、
NPO法人アートNPOリンク

常に革新しつづける文化芸術を振興するために

—投資的助成制度の確立と文化芸術団体のキャパシティビルディング—

● 日本の文化芸術振興・文化力基盤形成に必要な《7つのポイント》

① 享受者（愛好者）の深化

- ・ アートリテラシーを高める教育を（鋭く意味深い洞察をもった愛好者を育てる）

② 芸術家への多様な支援の方法の開発

- ・ アーティストの高いモビリティに即した支援や成長に応じた支援方法の開発を

③ 投資としての助成制度の確立

- ・ 芸術団体の裁量の幅を広げる、投資としての助成制度を

常に革新しつづける文化芸術を振興するために

—投資的助成制度の確立と文化芸術団体のキャパシティビルディング—

④ 評価の定まっていない先駆的な取り組みへの支援

- ・ 革新性の高い分野への先行投資としての多様な支援制度の開発を

⑤ 芸術労働者（アートマネジャー等）の雇用と地位向上

⑥ 芸術労働者の研鑽プログラムの開発

- ・ アートマネジャーやキュレーター、コーディネーター等の労働や雇用の環境整備
- ・ 文化機関や文化芸術団体に働く人のキャリアや専門性を高める研鑽プログラム

⑦ 文化芸術団体のキャパシティビルド

- ・ 支援や助成対象の文化芸術団体の経営や運営スキルを高め力強い発展を促す₁₇

ありがとうございました

本資料に関する問い合わせ先:

NPO法人アートNPOリンク事務局

担当 樋口貞幸

E-mail anl@arts-npo.org

TEL 075-231-8607